

# 月寒水道物語

古くからの歴史を持つ豊平には、いつまでも語り継ぎたい歴史があります。かつての豊平を知る方に、次世代に伝えたい豊平の歴史を紹介していただきます。  
 今回は、以前月寒地域に水を供給していた「月寒水道」の歴史をひもといってみましょう。



月寒水道の歴史を伝える西岡水源池。今も昔と変わらぬ自然が息づく。右奥に写っているのが取水塔(昭和55年/札幌市写真ライブラリー所蔵)

## 区内に残る「月寒水道」の遺産

西岡水源池の一角にある取水塔は、貴重な歴史的建造物として、平成13(2001)年に国の登録有形文化財に指定されました。  
 また、西岡高台配水池の敷地内にある水道局西岡記念館(西岡4-8)には、月寒水道浄水場のろ過池が復元されており、かつての施設の姿を今でも見ることができます(見学は事前に連絡が必要。冬期間は不可)。  
 ※問い合わせ先：水道局南部配水管理事務所  
 ☎812-7300



▲月寒水道のろ過池を復元したもの

豊かな水をたたえる西岡水源池。ここを水源として、月寒に駐屯していた陸軍歩兵第二十五連隊施設へ給水するために造られたのが「月寒水道」です。今から九十五年前、明治四十二(一九〇九)年(四十三年という説もある)のことでした。  
 この水道は、月寒川をせき止めた貯水池(西岡水源池)に設置した取水塔から水を引き、途中の浄水場(現在の西岡高台配水池の場所)でろ過した後、月寒にある陸軍施設に給水していました。

戦後、豊平町はこの水道施設を国から借り受け、一般家庭への給水を始めました。当時の生活用水は井戸水が一般的でしたが、月寒地域一帯は井戸を掘るのが難しく、水不足に苦しむ住民にも給水できるようにするためでした。  
 その後、月寒は住宅地として発展し人口が急増。その一方で、施設は老朽化が進み年々機能は低下し、一部では給水不能の状態が発生しました。  
 そこで町は、昭和三十年代初めから、深井戸を掘り水源を地下水に求める拡張計画を進めました。計画水量を確保するには至りませんでした。  
 昭和三十六(一九六一)年に豊平町は札幌市と合併。同四十六(一九七二)年の白川浄水場からの給水開始によって、月寒水道は約六十年にわたるその役目を終えました。